

**コロナ禍におけるひとり親の就労・生活調査
物価高騰による影響
～「クリスマス、年末年始準備ができない」7割～
(2022年11月版)**

2022年12月22日

認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

コロナ禍のひとり親調査プロジェクト

目次

1. 調査概要
2. 本調査の要点
3. アンケート回答者の属性
4. 就労と収入の状況
 - a. 就労
 - b. 就労収入
5. 家計の状況
 - a. 月々の支払い
 - b. 滞納
 - c. 借入
6. 給付金の使い道
7. 子どもへの影響
 - a. 我慢の体験
 - b. クリスマスと年末年始

調査概要

➤ 導入

2022年4月ごろから顕著になった物価高騰と2021年から上昇するエネルギー価格、2022年11月ごろからの新型コロナウイルスの感染再拡大の影響を受けて、ひとり親世帯の生活状況はさらに悪化していると思われます。新型コロナウイルス感染症以前からの生活困窮状況に加えて、長期化するコロナ禍と物価高騰でひとり親世帯の仕事、子どもとの暮らしはどのような状況になっているのでしょうか。その実態を明らかにすることを目的として、認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむと研究者、地域女性サポートNPOらによるコロナ禍のひとり親調査プロジェクトチームが本調査を実施しました。データ収集をすることにより、ひとり親世帯の経済面や生活面、子どもへの影響等の現状を明らかにし、認知向上に努めます。

➤ 本調査の基本情報

調査名 : 「コロナ禍におけるひとり親の就労・生活調査 物価高騰による影響 ～『クリスマス、年末年始準備ができない』7割～（2022年11月版）」

期間 : 2022年11月21日（月）～11月27日（日）

対象者 : 認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむの「《DAIJOUBU！2022 秋冬》支援（食品支援対象者は北海道と沖縄を除く全国）」を受けているひとり親世帯2500名

回答数 : 1255名 有効回答数: 1255名

調査方法 : WEBフォームによるアンケート調査。対象者に対して、メールで調査協力を依頼。

本調査の要点

主なポイント

1. 物価高騰がもたらした生活への影響
2. 厳しい家計ー滞納、我慢の体験、貯金はとりくずされ借入を強いられる状況
3. 多子世帯への影響
4. クリスマスと年末年始の準備ができない見通し

アンケート回答者の属性

母子世帯が**99.3%**、年齢は30代・40代が**81.7%**を占める。

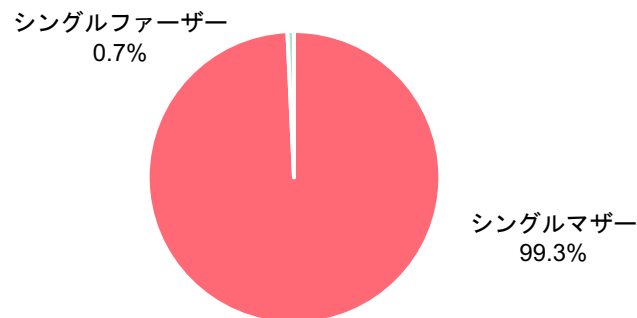
児童扶養手当の受給率は、全額支給が **67.9%**、一部支給が **22.2%**。

※「全額支給」：月額 43,160円（子ども1人の場合）を受けている

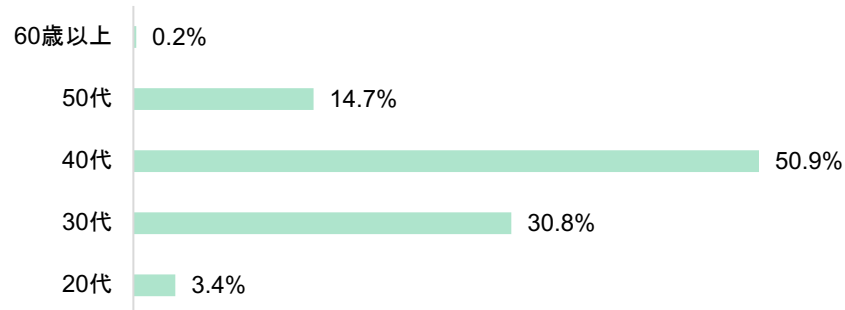
※「一部支給」：月額 10,180円～43,150円（子ども1人の場合）を受けている

※「受けていない」：児童扶養手当と同等の所得であるが、制度上児童扶養手当が受けられていないひとり親家庭及び、お子さんが19歳～20歳の家庭など
非課税世帯の割合は**76.7%**。

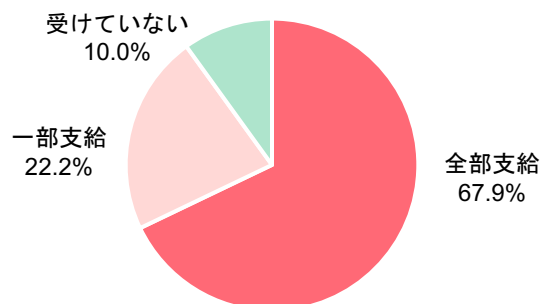
属性 (n=1253)



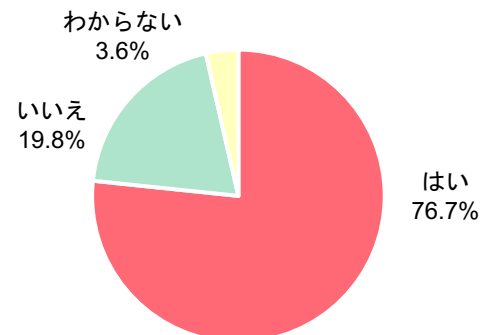
年齢 (n=1255)



児童扶養手当 (n=1255)



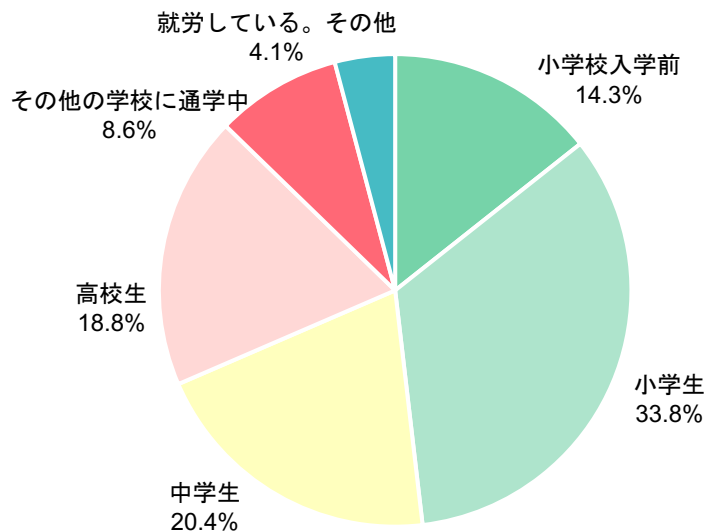
住民非課税世帯 (n=1255)



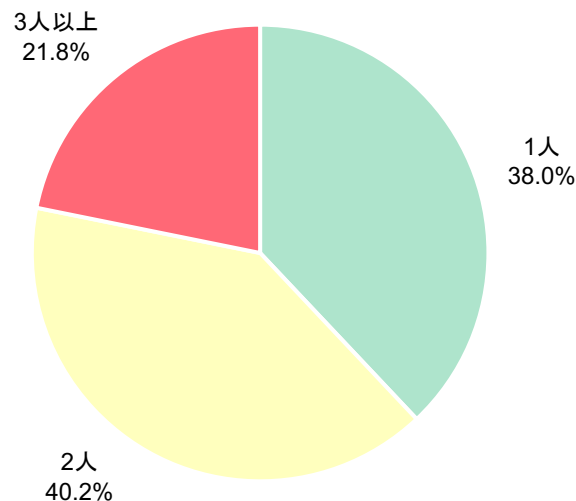
アンケート回答者の属性

子どもの年齢は小学生が最も多く**33.8%**、次に中学生**20.4%**、高校生**18.8%**と続いている。
一世帯当たりの子どもの数は2人が**40.2%**、1人が**38.0%**、3人以上の多子世帯が**21.8%**を占めている。
また、一世帯当たりの子どもの平均人数は**1.94人**である。

子どもの年齢 (n=2426)



一世帯あたりの子どもの人数 (n=1251)



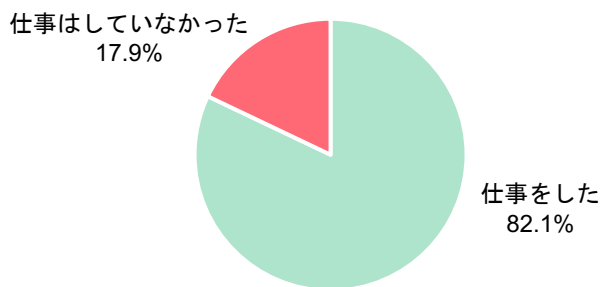
一世帯あたりの子どもの人数
平均**1.94人**

就労と収入の状況—就労—

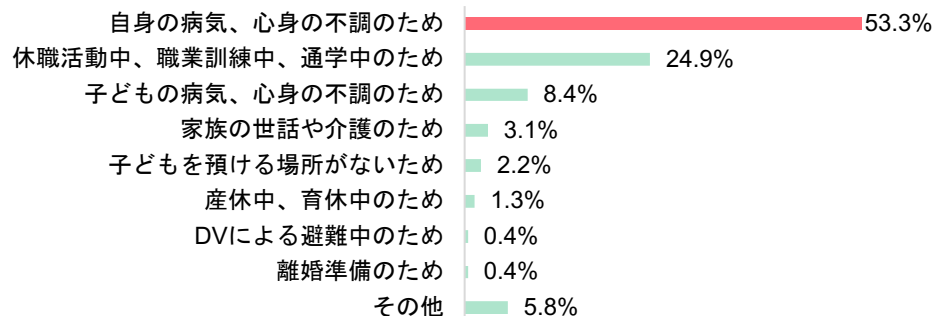
就業率は **82.1%** と高いが、雇用形態は「**非正規**」**7割 (71.7%)**、給与形態は「**時給・日給**」**7割 (67.1%)** であり、不安定な雇用・給与形態の割合が非常に多い。

仕事をしていない人（225人）のうち「自身の病気、心身の不調から働いていなかった」と答えたのは半数以上 **(53.3%)** にのぼっている。

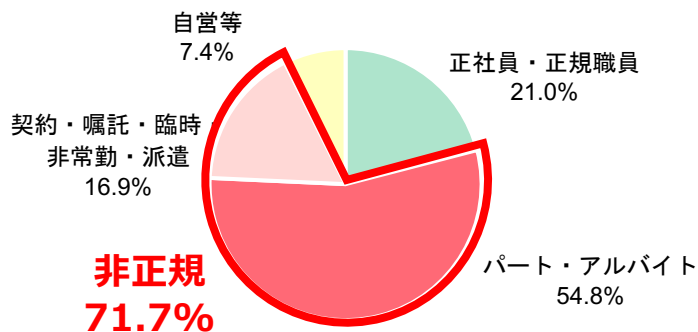
就業率 (n=1255)



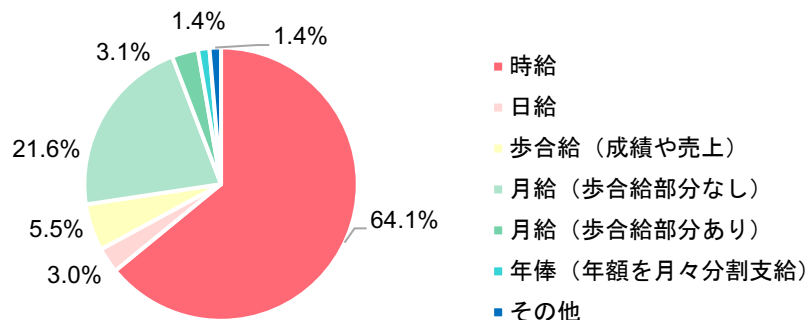
仕事をしなかった理由 (n=225)



雇用形態 (n=1030)



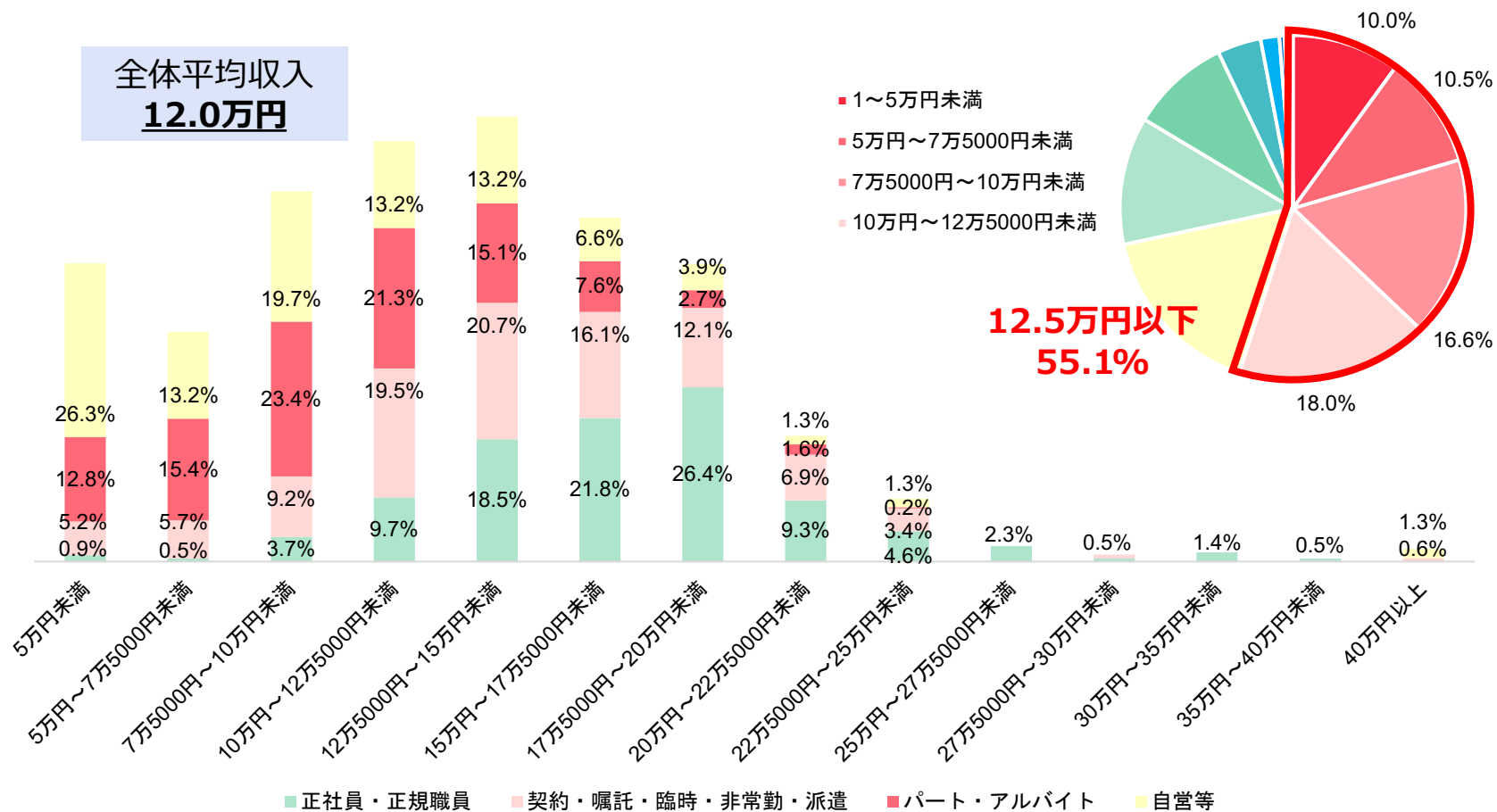
給与形態 (n=1030)



就労と収入の状況—就労収入—

10月の平均就労収入は**12.0万円**。
 分布については、12.5万円未満が**5割 (55.1%)** を占めている。

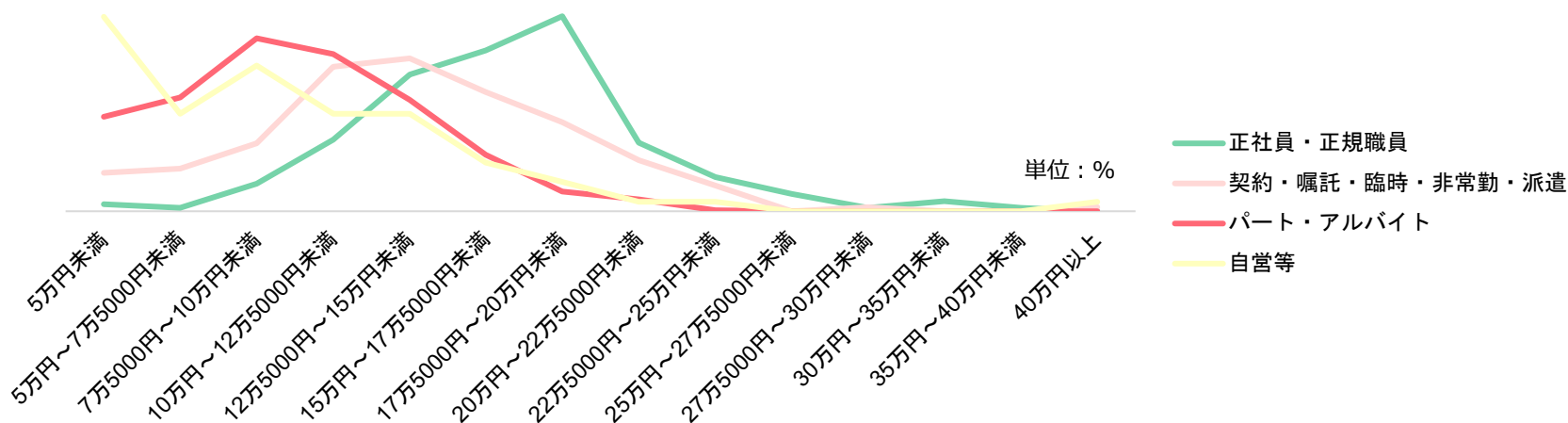
10月の収入 (n=1030)



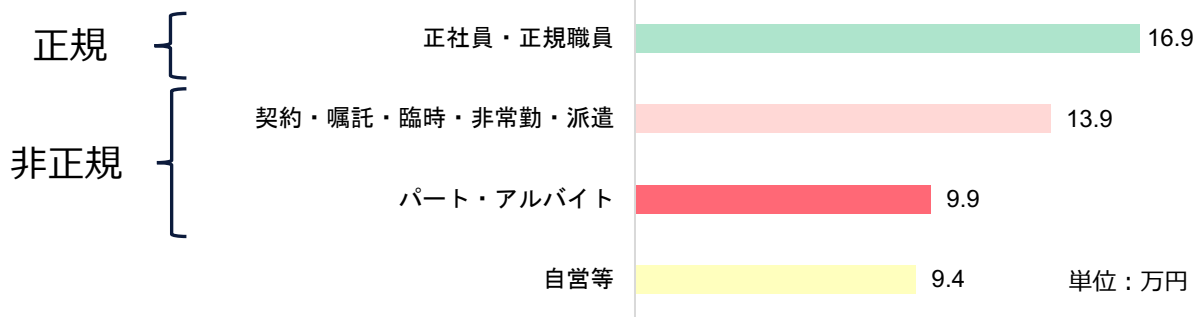
就労と収入の状況—就労収入—

平均月収は、正規**16.9万円**、非正規（パート・アルバイト他）**10.9万円**。
雇用形態が「正規」か「パート・アルバイト」かによって、収入分布に大きな差がある。

10月の収入分布（雇用形態別）（n=1030）



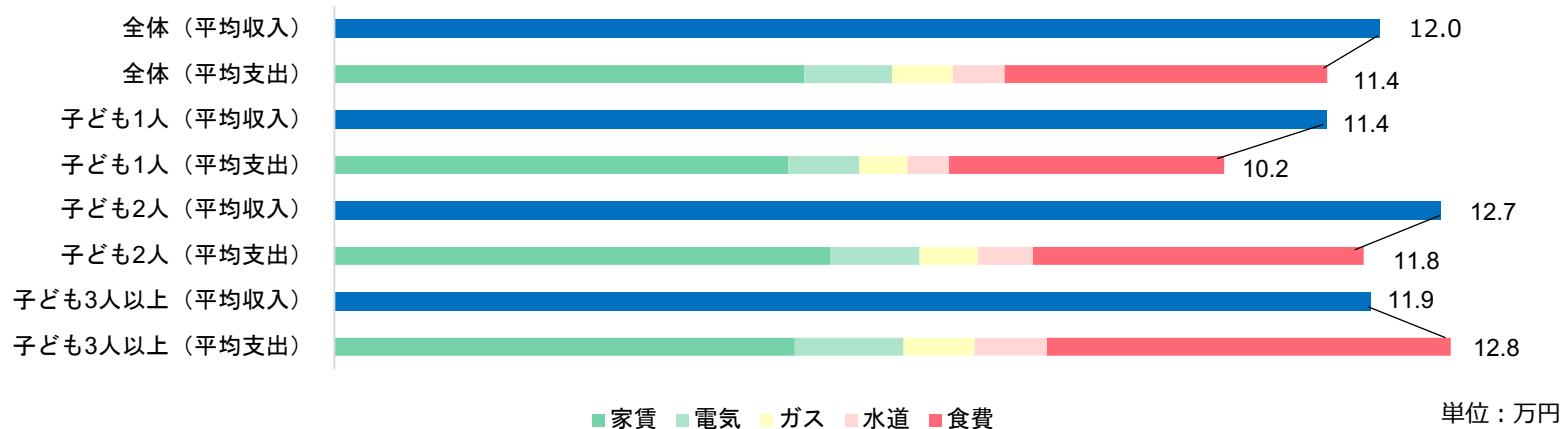
雇用形態別の平均収入（n=1030）



家計の状況一月々の支払いー

10月の平均支出額は、家賃**54,375円**、電気**9,940円**、ガス**6,570円**、水道**6,237円**、食費**37,348円**。
子どもの人数別にみた世帯の平均就労収入から平均支出額を差し引くと、手元に残る金額は、子どもが1人の世帯で平均**12,000円**、子どもが2人の家庭で平均**8,800円**、子どもが3人以上の世帯で**-9,200円**であった。

1世帯あたりの子どもの人数別にみた家計の平均収支
(n=1217)



POINT :

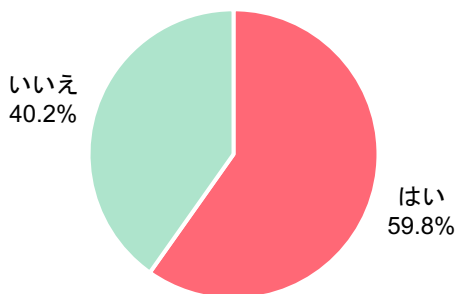
子どもの人数が3人以上の多子世帯は、電気・ガス・水道・食費のいずれも、出費がより多く、家計への負担が大きい。家賃、光熱費、食費という生存に必要なライフラインの平均支出額だけでも、子どもが3人以上の世帯は平均就労収入からの収支がマイナスとなっており、特に支援が必要な状況がうかがえる。

(例：電力・ガス・食料品などの価格高騰による負担増を踏まえ、住民税非課税世帯などに対し、1世帯あたり5万円を支給する「電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金」は世帯あたりの給付となっているが、子どもの数に合わせて増額するなどが求められる。

家計の状況一月々の支払いー

4月から10月末にかけて、貯金のとりくずしを行った人の割合は**59.8%**にのぼっている。

貯金をとりくずした (n=1255)



(自由記述)

- 世の中の値上がりが厳しいです。貯金もそこをつきそうです。そんな中で母子手当、給付金は本当にありがたいです。(40代、パート、子ども3人)
- 普通に生活するだけでも精一杯で、子供の学費のために貯めたわずかな貯金を切り崩しながらなんとか暮らしている状況です。これからどうなるのか、いつまでこんな暮らしをするのか、先に希望が持てません。(40代、パート、子ども2人)
- 以前緊急小口資金を借りた。返済は来年からなので、ただでさえ貯金を崩しているのが不安。(30代、派遣社員、子ども1人)
- 借りても返せないのが、今は貯金を切りくずさないとやっていけない。(40代、パート、子ども1人)
- 冬休みで子どもが家にいるので、食費と電気代が上がるので、家計が心配です。貯金を切り崩して生活しています。お金のことを考えると毎日辛いです。(40代、自営業、子ども1人)
- 子供の進学のための費用として離婚前からコツコツ貯め、今は余裕が無いので貯める事が出来ないからと必死に手をつけずに頑張って残していたお金から払いました。その貯金がある為に毎月の収入は生活保護以下なのに生活保護を受けず必死に守っていたお金です。(40代、パート、子ども1人)

POINT :

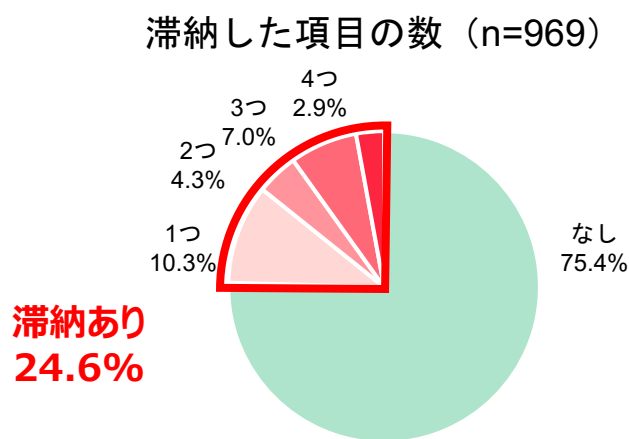
自由記述からも、本来は手をつけたくない子どもの将来への貯蓄も取りくずさざるをえない状況がうかがえた。毎月の支払いを行うだけでも余裕がない状況は、子どもの将来にも暗い影を落としているといえる。

家計の状況—滞納—

10月に費用負担があったと答えた人のうち、家賃、電気、ガス、水道の中で1つでも滞納があったと回答した人の割合は、全体の**24.6%**。

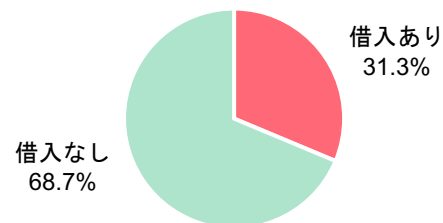
10月は「滞納なし」と回答した**731世帯**についても、そのうち**約3割 (31.3%)**は、4月から10月末にかけて家計をまかなうための借入をしていた。

項目別にみた滞納の割合は、家賃**13.0%**、電気**13.6%**、ガス**14.1%**、水道**16.7%**である。

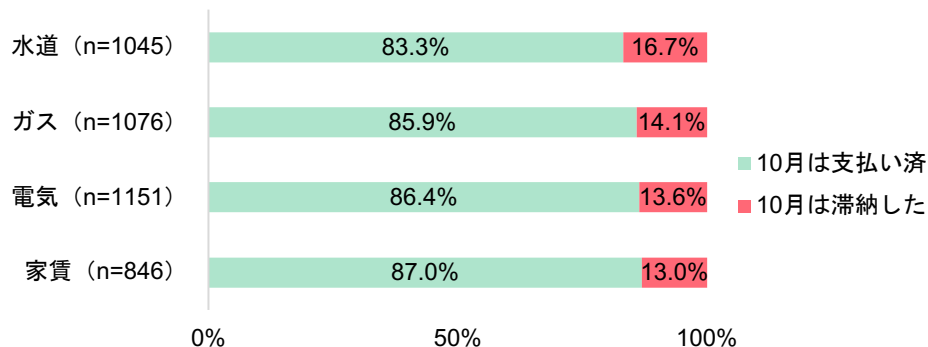


*集計対象外286件 (回答に1つでも無効が含まれる等)
*合計は計算上100%にならないが、滞納の積算は24.6%

4月から10月末にかけての借入状況 (n=731)



項目別にみた滞納率



家計の状況一滞納一

滞納の理由（自由記述より）

1. 物価上昇

- 食料や日用品の値上げなどで回せなかった（40代、パート、子ども3人）
- 高すぎるから。全てが高い。使いすぎてるわけでもないのに。（30代、病気・心身の不調で仕事はしていなかった、子ども3人）
- 物価高により、光熱費や食べる物の値段が高くなり、学校の集金や、子供の衣類等の購入があると、本来支払うべきものが後回しになってしまう。（40代、パート、子ども4人）
- 物価高や暖房の使用が増えてきたため、水道代を翌月に回しました（30代、パート、子ども1人）

2. 優先の支払いから

- 収入が少なく元々滞納があり、止まるものから優先に払う状況です。（30代、パート、子ども1人）
- お金がないから、優先順位で支払いをした。先月支払いしてないものを先に払った。（50代、パート、子ども1人）
- ガスなど支払うのに、水道代を後回しにした。（40代、パート、子ども1人）
- 毎月どれかの支払いを遅らせて、他の支払いをしているため。（40代、アルバイト、子ども1人）

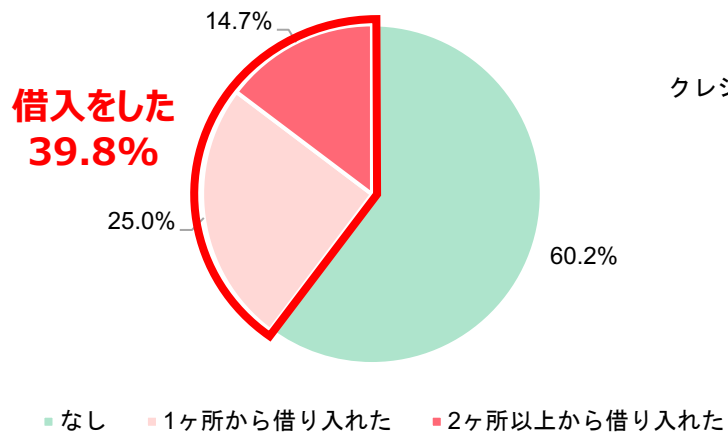
3. コロナ関連：

- コロナ感染、濃厚接触者、学校休校、物価高、養育費慰謝料未払いなど収入がへり 滞納を重ねて月々内金として払い、待ってもらっているが、なぜ払えないか シングルだからって甘えるなど世の中は 待ってくれず借金は膨らみ払えない限界。（40代、正社員、子ども3人）
- コロナで貯金が100万から0になりました。コロナが落ち着いてきたら、すぐ支援を打ち切る。一時的な支援ではなくて、長期的な支援をお願いしたいです。子どもが体調不良で、仕事に行きたくても行けない現状をわかってほしいです。（40代、パート、子ども3人）

家計の状況—借入—

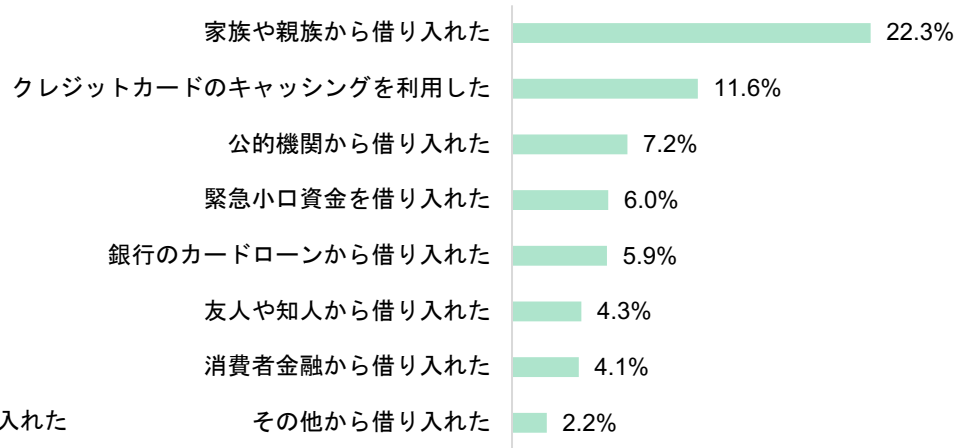
4月から10月末にかけて、**約4割（39.8%）**が家計をまかなうために借入をしたと回答している。「家族や親族から借り入れた」が**22.3%**と最も多く、次いで「クレジットカードのキャッシングを利用した」が**11.6%**。複数の借入を行なっている人は**14.7%**である。

借入の利用状況（n=1255）



*合計は計算上100%にならないが、借入の積算は39.8%

借入の内訳（n=1255、複数選択）



POINT :

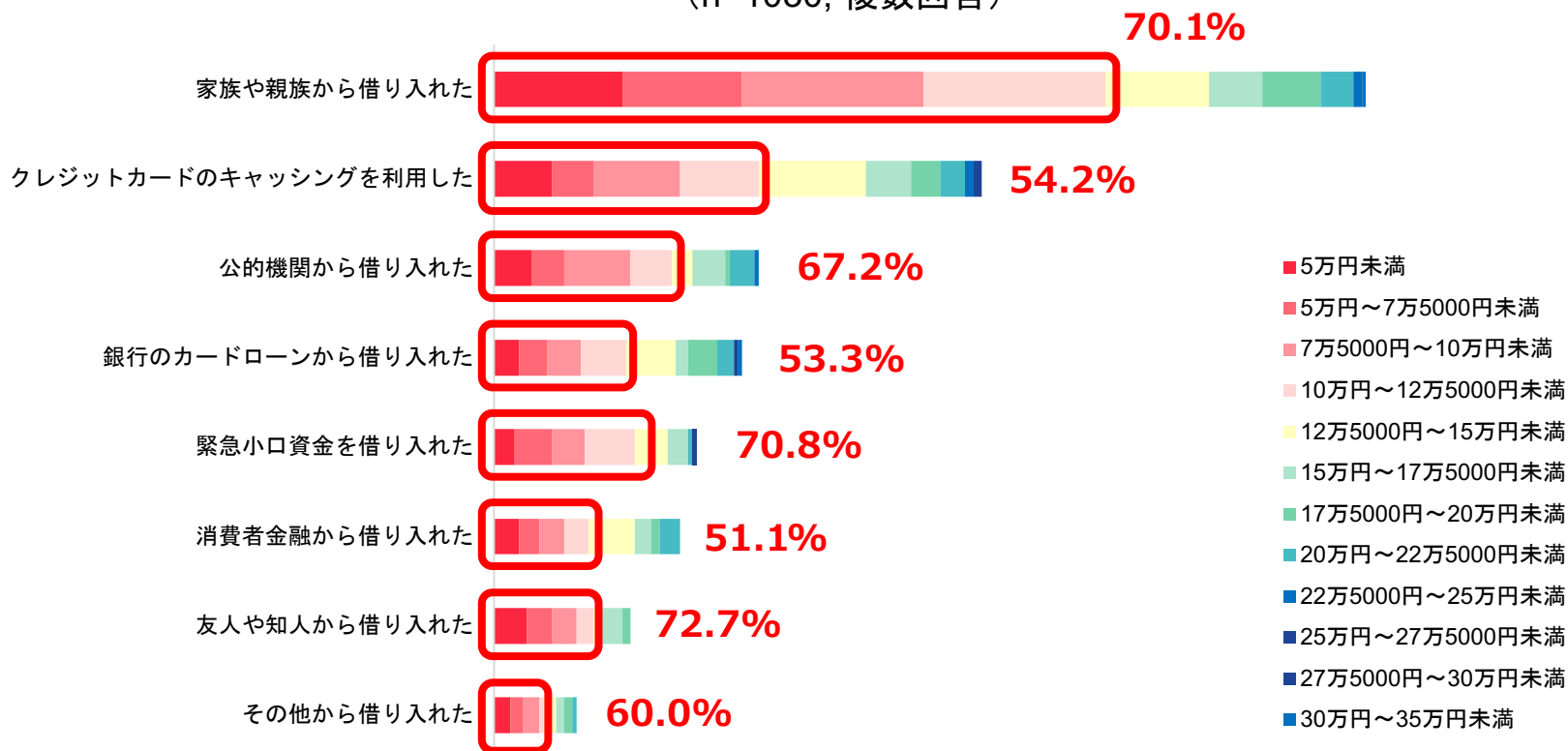
物価上昇が始まった4月から10月末にかけて、家族や知人からの借入やクレジットカードのキャッシングなど、自身とその周辺から借入を行うことによって、なんとか生活をやりくりしていることがうかがえる。

また、複数箇所から借入を行なっている。

家計の状況—借入—

10月中に仕事をしていた人のうち、4月から10月末に借入を行なった人の割合を収入別にみると、10月の収入12.5万円未満が**51.1%~70.0%**と大半を占めている。

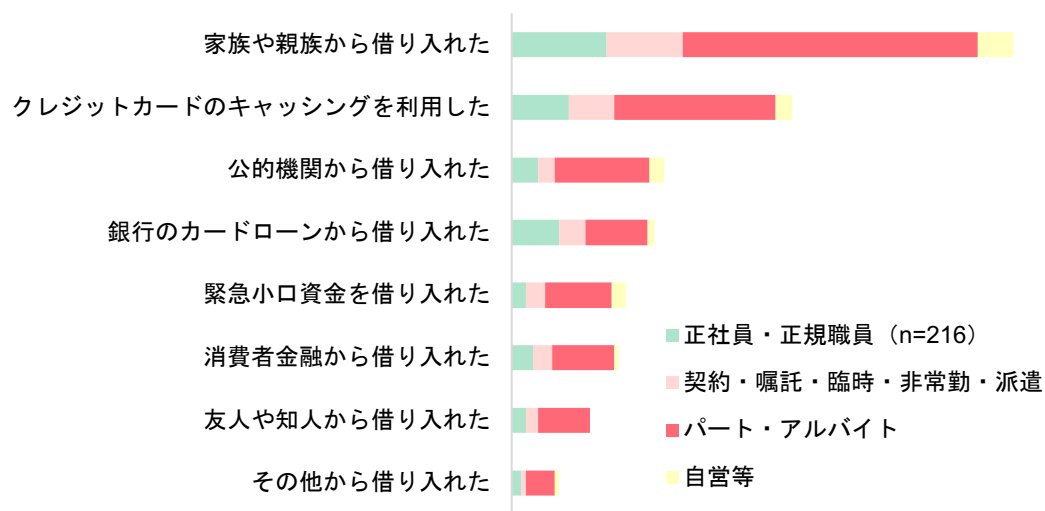
借入の内訳（収入別）
（n=1030, 複数回答）



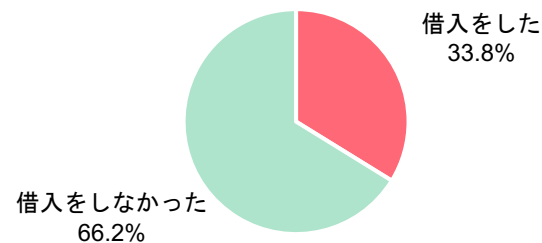
家計の状況—借入—

何らかの借入をした人は、正規で**33.8%**、非正規で**37.8%**。

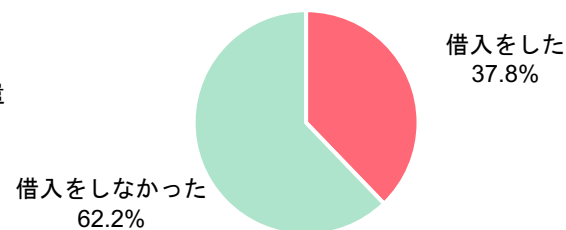
借入の内訳（雇用形態別）
(n=1030, 複数回答)



正規 (n=216)



非正規 (n=738)



POINT :

借入を行なっている人の収入や雇用形態からは、低い収入、不安定な雇用形態の人が借入を行う割合が高いことがわかる。生活費をキャッシングを利用し補填することで、自転車操業になり返済に追われているという自由記述も少なくない。借入をせざるを得ない状況に物価高騰がさらなる追い討ちをかけている。緊急小口資金を借りたものの来年1月から始まる支払いに不安を抱えるという自由記述も多い。

家計の状況一借入一

(自由記述)

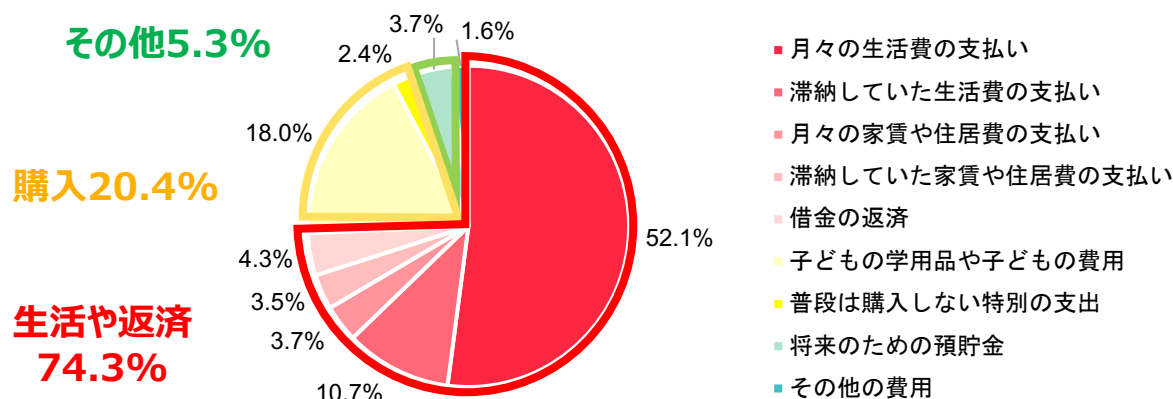
- 物価がどんどんとあがり本当に苦しいです。(30代、自営業、子ども2人)
- 物価、光熱費が高すぎてどうしようもない。電気ガス水道が止まったら困るので、他の物を削るしかない。(30代、仕事をしていなかった、子ども1人)
- 元々ギリギリで生活をしていた私達にとって、物価上昇等の影響でいつ生活ができなくなるのか分かりません。絶望しかありません。毎日生きる事すらつらくなる時があります。(30代、パート、子ども2人)
- コロナや物価上昇で負担が増え、食べる物も買えません。頼れる人がいないため、やむを得ず派遣の仕事で繋いでいますが、休むと給料がへり、生活できません。生きるのがつらいです。(30代、派遣社員、子ども1人)
- 物価ばかりが急激にあがり、収入がたりません。学校の定期、検定代を払うために、食費日用品費をけずってばかりです。物価高なのに収入は上がりず、コロナで休まなければいけない状況もあって家計は火の車…どころじゃなく、心中レベル。収入あっても支払うものも値上がりしていきこの冬を無事に越せるか心配。もっと周りの声を聞いてほしい。(40代、パート、子ども1人)
- わたしは知人から借金をしました。社会福祉協議会からも借金をしております。生活を助けていただき感謝しております。年が明けたら娘が高校入試です。そのお金もありません。授業料とそれ以外の免除申請はするつもりですが、入試と入学に関する大きなお金を借金なくては高校にいけません。市役所や母子会の貸付は保証人の年齢制限でだめでした。返済完了時に70歳に達していない現役の人、で無理でした。借金しなきゃいけないのに借金もできない状態です。(50代、仕事をしていなかった、子ども1人)
- 以前緊急小口資金を借りた。返済は来年からなので、ただでさえ貯金を崩しているので不安。(30代、派遣社員、子ども1人)
- 緊急小口資金を去年借りたが今の生活がギリギリで返す目処が立っていない。(40代、パート、子ども3人)
- 来年1月から緊急小口と総合の支払いが始まり、高校入学なのでまた、借り入れないといけないのではと心配。(40代、契約社員、子ども1人)
- 緊急小口資金、総合給付資金を延長していただきたい。仕事も安定してない中コロナや風邪を引くと仕事を休まなくてはならず、休んで有給等つくならまだしもつかない。そしてこの物価高騰になり本当に大変なんです。(40代、仕事はしていなかった、子ども1人)

給付金の使い道

給付金の使い道は「日々の生活費の支払い」が**52.1%**と圧倒的に多く、これを含む**74.3%**が生活や借金の返済と回答した。

一方、「子どもの学用品や子どもの費用」**18.0%**や「普段は購入しない特別の支出」**2.4%**といった何かを新たに購入するという使い道は低かった。

給付金5万円の使い道 (n=962)



(自由記述)

- 緊急支援金の5万を支給していただいても、12月は母子手足がない月なので生活に余裕ができる訳ではありません。貯金もどんどん減り…数ヶ月で支払えなくなります。(30代、パート、子ども2人)
- 年末年始までに給付金出して欲しい。このままだと生活どころか死活問題です。明日の米もない状態なのに家賃なども払えない…非課税世帯の5万円じゃ足りません…助けてください。(30代、パート、子ども5人)

POINT :

非課税世帯 (給付金対象者) のうち、ほとんどの世帯で12月頃の給付金は生活費や滞納の返済に消えてしまう。

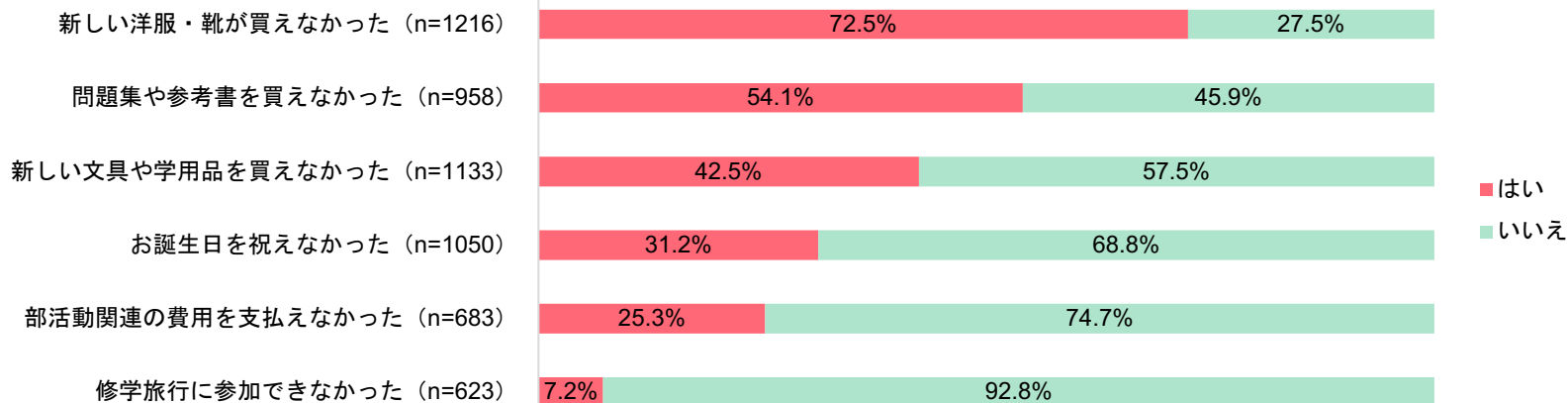
子どもへの影響—我慢の体験—

我慢の体験について尋ねた質問では、「新しい洋服・靴が買えなかった」が最も多く**72.5%**、続いて「問題集や参考書を買えなかった」**54.1%**、「新しい文具や学用品を買えなかった」**42.5%**、「お誕生日を祝えなかった」**31.2%**、「部活動関連の費用を支払えなかった」**25.3%**となっている。

「修学旅行に行けなかった」の割合は比較的低いものの、**7.2% (45人)**であった。

※ 母数は「そもそも該当しない」を除いているため、項目によって異なる

我慢の体験



(自由記述)

- 物価が高騰していく中で、今後も子どもの年齢が上がれば生活費も増えていく。将来に対して不安しかありません。今でも、暖房や照明、お風呂、食事、節約できるところを切り詰めてやっていますが、子どもが大きくなればできる事も難しくなります。周りのお友達のように習い事をさせたり、欲しいものを買ってあげられません。そういう思いをこれからずっと子ども達も、私自身も抱えていくんだと思います。

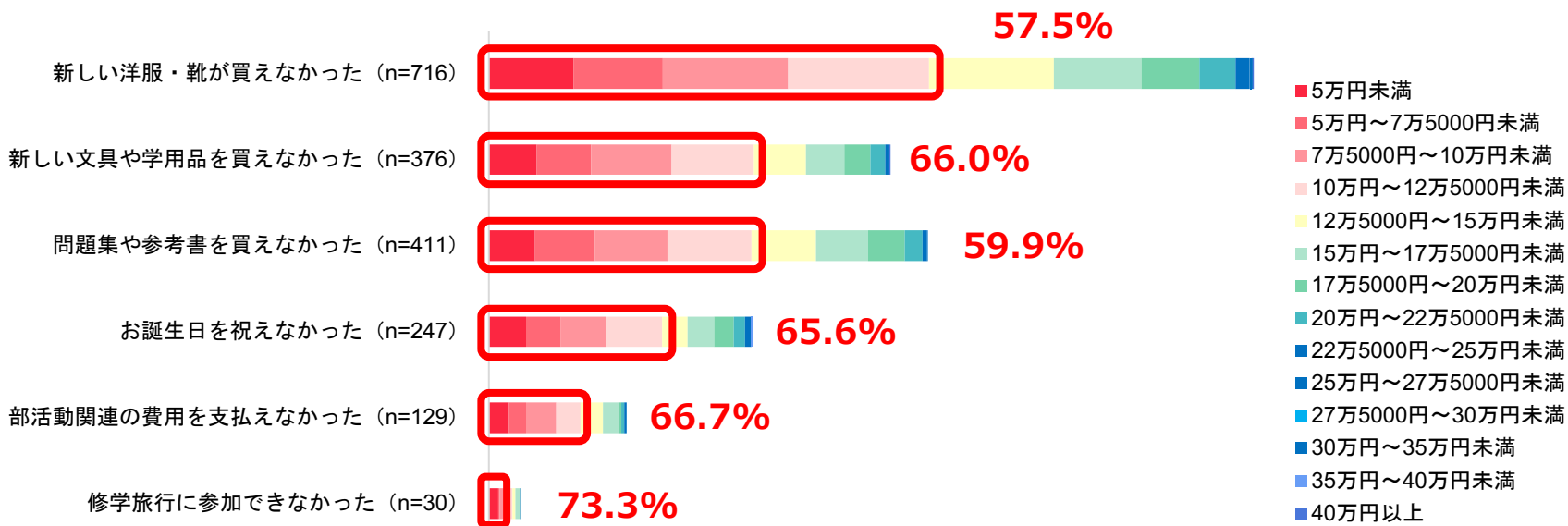
(30代、パート、子ども2人)

- 今だに、中学からの擦り減ったスニーカーを履いて、我慢してくれています。物価高の為、本当に厳しい生活で、食費を削らなければいけません。子どもにもっと食べさせてあげたいです。(40代、パート、子ども1人)

子どもへの影響—我慢の体験—

6つの「我慢の体験」に関して、「経験がある」と回答した人のうち、月収12.5万円未満の世帯が約6～7割
(57.5%～73.3%)といずれも半分以上を占めている。

我慢の体験の内訳（収入別）



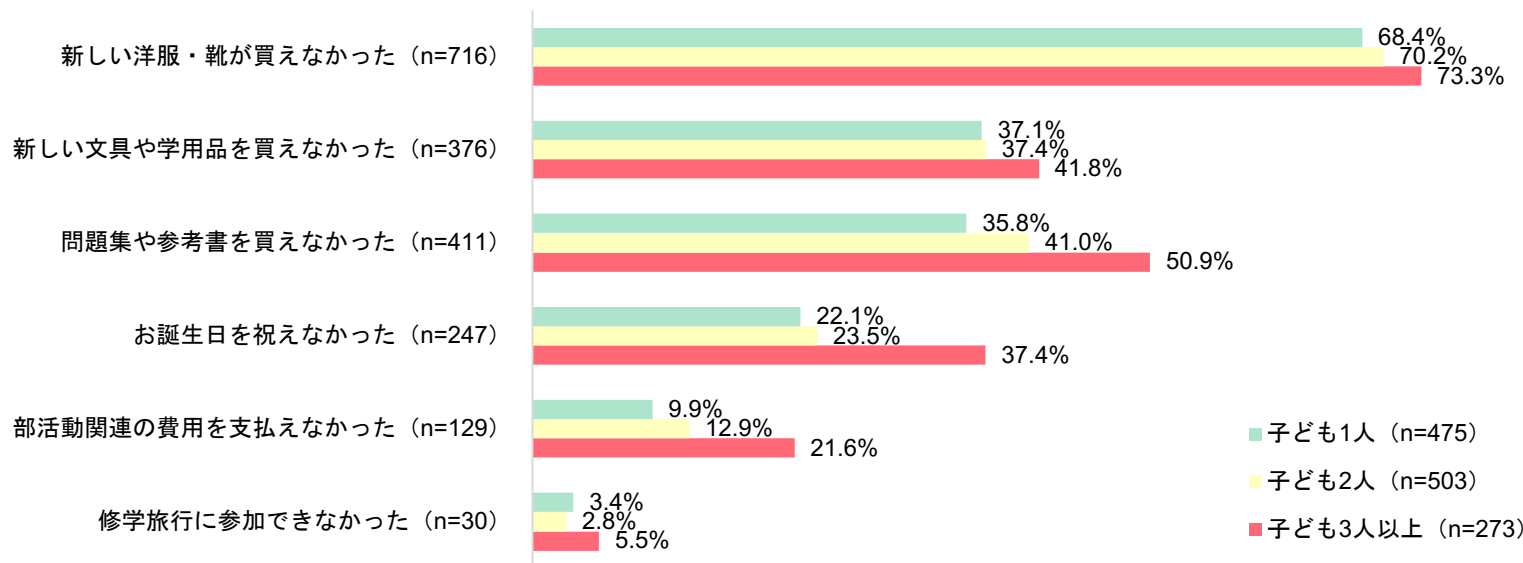
POINT :

物価上昇の中、食費や服や靴など生活に欠かせない費用の支出が難しいという声や、問題集や学用品といった勉強関連の支出、そして部活動や修学旅行と課外活動の費用を負担することができない世帯が一定数いることがわかる。世帯収入の低さが、毎日の生活や子どもの学習、課外活動に関連する項目と、多岐にわたる体験の喪失につながっている。

子どもへの影響—我慢の体験—

「お誕生日を祝えなかった」と回答した割合は、
子ども1人の世帯では **22.1%**、子ども2人の世帯では **23.5%**、子どもが3人以上の世帯では **37.4%**であった。
「部活動関連の費用を支払えなかった」と回答した割合は、
子ども1人の世帯では **9.9%**、子ども2人の世帯では **12.9%**、子どもが3人以上の世帯では **21.6%**であった。

我慢の体験の内訳（一世帯あたりの子どもの人数別）



POINT :

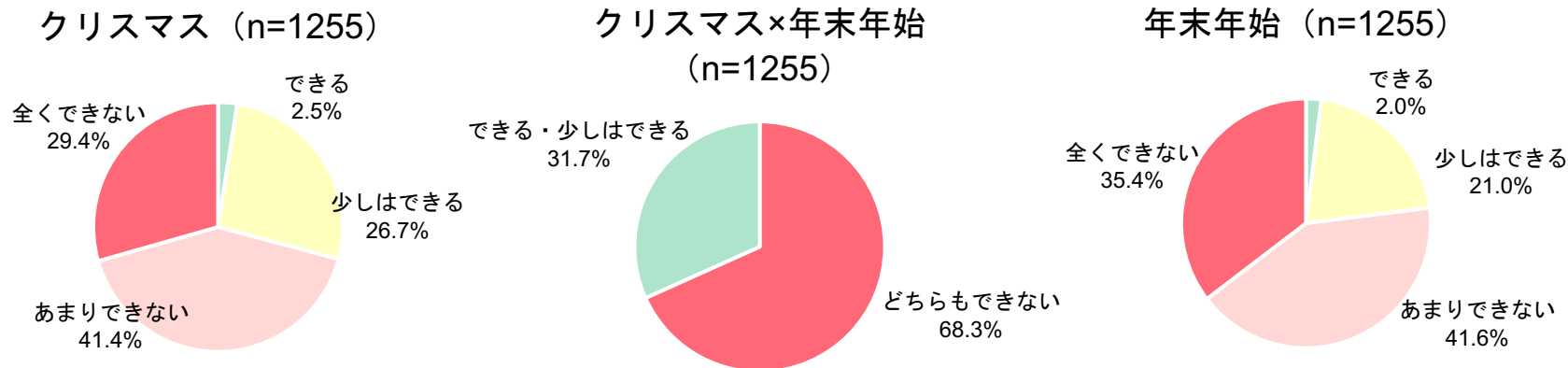
多子世帯では、特に「お誕生日を祝えなかった」「部活動関連の費用を払えなかった」が多いことから、「体験格差」が多子世帯でより大きくなる傾向がみられる。

子どもへの影響ークリスマスと年末年始ー

クリスマスと年末年始はどちらもできないと約7割（68.3%）が回答した。

クリスマスに何か「できない」と答えたのは70.8%、「できる」と答えたのは29.2%、

年末年始に何か「できない」と答えたのは77.0%、「できる」と答えたのは23.0%であった。



*どちらもできない：クリスマスと年末年始どちらも「できない」または「あまりできない」で回答

(自由記述)

- 子供にクリスマスプレゼントが買えない…12月は何も手当がないから辛い。(30代、パート、小学生1人)
- お正月らしい事は何もしてあげられないが、お餅位は食べさせてあげたい。(40代、パート、小学生1人)
- おせちやお餅などの用意、お年玉のお金の用意ができない。(20代、アルバイト、小学校入学前2人)
- お年玉はあげられないが、初詣でおみくじだけは引かせてあげれそうです。(40代、パート、小学生2人、就労その他1人)
- 娘の誕生日とクリスマスが近いのでプレゼントの準備そして年越しの準備など毎年行ってますが、今年はそれ自体が難しそうでなんと伝えるべきか悩んでいます。(40代、仕事はしていなかった、小学生2人、高校生1人)
- 賃金上がらず、物価高の為、普段の生活費費以上使えない。(50代、パート、小学生1人、就労その他1人)
- 日々の暮らして精一杯です。(40代、正社員、小学生1人)

POINT :

我慢の体験同様、一般的に子どもが「楽しみ」にする行事への出費が難しい状況がわかる。

コロナ禍のひとり親調査プロジェクト

コロナ禍におけるひとり親の就労・生活調査 物価高騰による影響

～「クリスマス、年末年始準備ができない」7割～

(2022年11月版)

調査主体：コロナ禍のひとり親調査プロジェクト

メンバー（五十音順）

- ・ 赤石千衣子 認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長
- ・ 五十嵐光 NPO法人ウィメンズアイ 事務局長
- ・ 石本めぐみ NPO法人ウィメンズアイ 代表理事 / NPO法人「人間の安全保障」フォーラム 理事
- ・ 小森雅子 認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 事業担当
- ・ 湯澤直美 立教大学コミュニティ福祉学部教授
- ・ 米倉京香 NPO法人ウィメンズアイ

調査アドバイザー：湯澤直美 立教大学コミュニティ福祉学部教授

協力：JPモルガン証券株式会社 市場調査本部

お問い合わせ先
シングルマザー調査プロジェクト事務局
E-mail:
single.mama.pj@gmail.com

プロジェクトに関する情報：
https://note.com/single_mama_pj

この調査を実施するにあたり、だいじょうぶだよ！基金、FONDATION CHANEL、米日財団より助成をいただきました。